



「大震災への備え」

国家公務員共済組合連合会 名城病院副院長

木本英三

東日本大震災から5ヶ月たちましたが、地震と津波にはだれしもが衝撃を受け、その被害の深刻さは多くの人に悲しみとつらさをもたらしました。

この東海地方では以前より、東海地震とそれに連動する東南海地震、南海地震への警鐘がならされてきましたが、これまでは、「本当に起こるのだろうか」と、あまり現実感覚はなかったのではないのでしょうか。でも、今回の大震災は改めて強い警告を発し、日頃の備えの大切さを教えてくれました。地震を防ぐことはできませんが、その被害を減らすことは間違いなくできるはずです。

いま、この名城病院で連動型の大地震が起こったらどうなるのでしょうか？

名城病院の建物は平成12年11月の竣工で、震度6強までは構造上の大きな被害の生じない耐震設計（揺れに耐える）がなされています。揺れを軽減する免震構造はされていません。自家発電装置により必要な設備・機器への電力供給がなされ、3日分用意しています。水や食料にも一定の備蓄があります。この病院では津波は想定

しなくともよいと思いますので、直ちに病院機能が停止することではなく、地域の緊急医療も他の基幹病院と連携して、担うことができるものと考えています。もちろん、電気、ガス、水道などのライフラインが長期的にどうなるか、液状化はどうかという地域の問題があります。ちなみに、名城病院は液状化の起こりやすい地域とはなっていません。

震度6弱以上の連動型地震になると、一般外来診療は中止になります。今日の分の薬だけでも出してくれと言っても、処方はいられなくなります。第一、薬の処方もできなくなります。調剤薬局へも行けないし、行ってはいられなくなるはずです。慢性疾患の方はくれぐれも1週間分くらいの予備をもつようにして下さい。

病院は救急医療現場になる可能性が高く、避難場所にはできません。この地域の避難場所は、名城小学校と丸の内中学校です。丸の内中学校へは途中で陸橋を渡らなければなりません。自宅へ帰ろうと思っても、「帰宅困難者」になってしまう可能性があります。

バスはとまっているでしょう。

鉄道もどうなっているか。車も高速は進入禁止になり、一般道も信号がどうなっているか。安全な場所へまず避難すべきです。

緊急の安否連絡も大変でしょう。固定電話も携帯も音声通話はほとんどつながらないが、伝言ダイヤル（171）、携帯伝言板はすぐ使えるようになるはず。音声はダメでもメールや、ショートメールの方が使えそうです。ツイッターも随分役立ったそうです。でも、年配の方は何のことか分かりますか？年配の方に理解できるでしょうか。ぜひ、使えるようにご家族に設定しておいてもらえれば、いざという時にきっと役立ちます。もちろん、安否連絡には病院のスタッフもお手伝いします。

病院の地震発生後の状況は、職員へは171、携帯伝言板、ツイッターで一斉通知しますが、ツイッター（@meijo_hp）は、誰でもみることができます。

30年後かもしれませんが、明日かもしれません。備えをしておいて、少しでも被害と悲しみが少なくなるように、名城病院の準備態勢をお知らせします。



心房細動について

心房細動という不整脈を御存知ですか。不整脈の中でも頻度が高く、年齢と共に増加し、80歳以上では約1割の方が心房細動とも言われています。脈拍が不規則になり、速くなることが多く、動悸、脈の飛ぶ感じ、胸部不快感、胸の痛みなどの症状が出る場合がありますが、脈拍があまり速くならない場合もあり、無症状で健康診断などで初めてわかる場合も少なくありません。

心房細動には慢性のものの一過性のものがあります。一過性のものは数分で治まるものから1日以上続くものもあります。心房細動の原因としては心臓弁膜症、甲状腺機能亢進症、高血圧症などがありますが、3割位の方は他に原因となる病気がなく起こります。またストレス、不眠、飲酒、緊張などがきっかけとなり、なることもあります。心房細動が続くと心不全になりやすくなります。また、脈が不規則になるため血液の流れが一定で

なくなり、血流がよどみ左心房というところに血栓(血の固まり)ができてやすくなります。

一番恐いのはその血栓が突然はがれて脳や手足に運ばれて血管が詰まり、脳であれば脳梗塞(脳塞栓)を起こすことです。脳梗塞の約1/5は心房細動が原因と言われており、また心房細動が原因の時は重症の脳梗塞になりやすくなります。治療としては薬で心房細動を予防したり、脈拍があまり速くならないように脈拍をコントロールする薬を使ったりします。

最近ではカテーテル治療で心房細動を治す治療も一部可能となってきています。また、多くの方は血栓予防のため血液を固まりにくくする薬を服用してもらいます。

以上のように、心房細動はあまり苦しくないからといってそのままにしておくことと取り返しのつかないことが起きることがあります。心房細動と言われたら、また心房細動かなと思ったら、循環器科にかかり相談するようにして下さい。



名城病院事務部長に就任して

この4月から佐々木前事務部長の後任として赴任してまいりました落合です。大学を卒業し最初に就職した病院に再度勤務できることを嬉しく思うと同時に、気の引き締まる思いがいたします。初心に帰った気持ちで事にあたって行きたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

私は名城病院の薬剤師として、当時の柄松薬局長の下で昭和52年から12年間お世話になりました。その後、東海病院に赴任し薬局長、事務部長を経験して今日に至っております。趣味は毎週土曜日に東海病院グラウンドで国家公務員のみなさまで構成されている内共テニスクラブで楽しく健康維持をしています。また、下手の横好きで習字

(書道)を40年以上習っていますが、師匠の指導が甘いのか、天性の能力の問題か少しも進歩しませんが、参加することに意義ありと年に4回ほど展覧会等に出品しています。

さて、相も変わらず当院を取り巻く環境は厳しく、昨年の医療改正で診療報酬はわずかながら上がったと言われてはいますが、まだまだ医療崩壊は続いています。こうした中、安全な医療の提供はもちろんのこと、患者さんの目線にあわせた医療の提供が運営上非常に大切なことと考えています。地域密着型の当院としては病診の先生方の連携がますます重要だと思っています。

まだまだ、不慣れでわからない事だらけですが、一生懸命に頑張ります。どうぞよろしくご指導をお願いします。

新任ドクター紹介



歯科口腔外科

梅村 恵理
ウメムラ エリ

今年、名古屋大学大学院を終了し歯科口腔外科に赴任いたしました。

口腔外科という言葉は聞きなれないと思いますが、全身疾患のある患者さんの歯科治療や入院・手術を必要とする口腔領域の診療を行っています。お困りの症状があれば気軽に受診してみてください。

名城病院・医療チーム 災害支援へ



東日本大震災により被災された皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。当院が所属するKKR(国家公務員共済組合連合会)では、3月11日の地震発生当初より、所属病院が輪番で医療支援を行って来ました。この一環として5月6日から5月10日にかけて、私を含めた当院の医療チーム4名が、気仙沼地域で医療活動を行いました。



左から 瀧本・徐・桔梗・喜屋武

◇医師

徐 大樹 (ソ テス)

今回、気仙沼で医療支援活動に従事して参りました。現地の津波の被害は甚大であり、凄まじいものがありました。医療支援に関しては震災から2ヶ月が経過しており、避難所は落ち着いており、薬品等の物資も充実していました。開業医さんも診察を再開しており、他にも全国から10チーム程の医療機関が参加しており、我々が診察した患者さんの数は少なく、軽症の方がほとんどでした。しかし、今回は、普段経験しない事を経験し、大変有意義でありました。

東南海大地震が起きた場合、名古屋駅のほうまで津波が押し寄せると聞いております。その際に私たち名城病院のスタッフが、どのように対処するべきなのか、何ができるのか、検討する必要がありますと思いました。

現場では災害対策本部を中心に各都道府県の医療チームが分担して避難所や老人施設等をまわりました。既に災害から2か月経過していたこともあり、急性期治療というより、粉塵等による上気道炎や、余震による不眠など慢性期的な治療が主となっている状態です。



被災地での診療の様子

◇看護師

桔梗 かおり (キキョウ カオリ)

私は医療支援に行く前は、「私にどんなことが出来るのだろうか」と、とても不安でした。ですが「どんなことが私にできるのか」と考える毎日で不安を感じている暇はありませんでした。

私は、街がすっぽりなくなってしまった現状を実際に見て、そこで生活されていた人たちのことを考えると胸が痛くなりました。そして、少しでも被災地の人の気持ちに寄り添い安心してもらえたらいいなと思い支援をしてきました。もっと被災地において支援したいという気持ちもありましたが、なれない場所と医療支援で心身ともに疲れてしまいました。名古屋に帰ってきた現在も、私に何か出来ることはないかと考えます。今後は被災地の自立の為の応援をしていこうと思っています。

空いた時間に気仙沼地区や陸前高田へ視察に行きましたが、映像で見るよりはるかにショッキングな光景が広がっており、大変心が痛みました。

しかしそんな状況下でも子供たちは笑顔で走り回っており、被災者とボランティアが協力して瓦礫の撤去をしているのを見て、少しでも役に立たたことは良かったと実感しております。復興には莫大な期間を要すると思いますが、また何らかの形で支援ができれば良いと思っています。

◇看護師

喜屋武 松太 (キャン ショウタ)

今回の派遣は、3月11日から約2カ月後の救援でした。全てが初めての体験で、終わってみると本当にあっという間でした。被災地の人たちはみんな明るく前を向いて歩いていました。この姿を見て、改めて人間の強さを実感しました。また、たくさんの優しさに触れました。みんな自分ができることを精一杯頑張っていたので、とても勇気をいただいたように思います。

今までは災害は人ごとでした。でも、実際を見てきてこれが名古屋だったらと思うと本当に怖さを覚えます。

いつか復興したら宮城に行こうと思います。そのときにも出会った人たちがきっと笑顔であることを願っています。



被災地での診療の様子

診療情報管理室

診療情報管理室室長 寺田正輝

診断書作成管理システムの導入

昨年の11月にオーダリングシステムを入れ替え、院内にあるコンピューターの大部分が最新の機器にかわりました。この4月にはメディパピルス (MEDI-Papyrus) という、診断書作成管理システムも追加導入いたしました。

このシステムにはあらかじめ、お預かりした書類と同等の書式 (フォーマット) が入っており、事務員と医師とのやり取りをスムーズにできるメリットがあります。

今回導入したシステムを使

用すると、下書きをシステムにて行い仮印刷後、各医師にて確認ならびに承認。同時に署名、捺印を行い、事務員にて最終確認をし、完成という流れになります。

システム導入により、システムから出力した書類を最初にお預かりした書類と共にお渡しする流れに変更になりましたが、各生命保険会社には確認済みですので、問題はございません。

また、当システムを使用し、書類のデータを一元管理する

ことにより、手書きでの下書き、ならびに手書きでの清書部分の簡略化、事務員と医師との書類のやり取りを最小限にできる省力化にて、以前は書類をお預かりしてから1か月ほどかかり、大変ご迷惑をおかけしていましたが、今では書類をお預かりしてから、約2週間でお渡しできるようになりました。

今後も、充実した診療だけでなく、それ以外でのアフターフォローも大事にした病院を目指していきたいと思っています。



病診連携システム登録医の皆様への「救急蘇生講習会」のお知らせ

日時 毎月1回 (第3水曜日 または 木曜日) 午後 90分 程度

場所 名城病院地下会講室

内容 AHA インストラクターによる BLS 講習会

参加人数 8名まで

参加費用 無料



お問合せ・ご予約 名城病院 医療安全管理部 ☎ (052) 201-5311 内線 2154

編集

3月に東日本大震災が起き、早くも5ヶ月がたとうとしています。私は出身が千葉県なので、地震発生時には家族と連絡がとれず、不安な気持ちで数時間過ごしました。幸いにも家族・友人共に被害はありませんでしたが、買い占めや結婚式の延期など様々な影響があり、しばらく混乱していたそうです。帰省した際に節電の影響で街が暗い事にとっても驚きました。名古屋に住んでいると不自由を感じる事は殆どありませんが、だからこそ時間の経過と共に無関心にならないように一人一人が心掛けていかなければいけないなと感じています。

山本京子

後記

名城病院診療等のご案内

ホームページはこちら <http://www.meijohosp.jp>

診療科目

内科・循環器科・小児科 (小児循環器)
外科・整形外科・脳神経外科・心臓血管外科
皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科
歯科口腔外科・神経内科

お問合せは、

- ・ 午後の診療等、詳しくは、医事課まで (内線 2132)
 - ・ 医療福祉に関しては、医療福祉相談室まで (内線 5105)
- 医療機関の方へ
- ・ 病診連携に関しては、病診連携室まで (内線 2151)

診察受付時間

〔新患受付〕 午前 8:30 ~ 11:30 まで
〔再来受付〕 午前 8:00 ~ 11:30 まで

面会時間

〔一般〕 午後 0:30 ~ 8:00 まで
〔新生児〕 午後 0:30 ~ 8:00 まで (授乳時間を除く)
〔ICU〕 午後 0:30 ~ 4:30 まで (家族のみ)
午後 5:00 ~ 8:00 まで

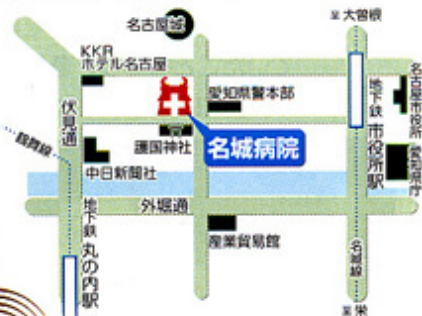
※生花の病室への持込は、感染予防のためご遠慮願います。

診療案内

〔休診日〕 土曜日・日曜日・祝日
年末年始 (12月29日~1月3日)
創立記念日 (11月6日)

所在地

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1
TEL (052) 201-5311 FAX (052) 201-5318



名城病院は、病院機能評価の認定を受け、よりよい医療を提供できるよう努力しています。